

【修了式あいさつ】

新聞で視野を広げよう

校 長 渡 邊 政 徳

皆さんは新聞を読んでいますか。新聞はいろいろな意味で優れた情報源であり、政治、経済、社会、国際情勢、文化・科学、スポーツなどの様々な分野の内容を網羅しています。

新聞が優れている点はまず信頼性です。記者が手間をかけて取材し、深掘りをし、デスクや編集者など多くの人が内容を確認し、記事を世に送り出しています。新聞社によって、内容の切り取り方や扱い方が異なる場合もありますが、事実を捉え、裏取りをして記事を提示することには変わりありません。

新聞には多様な内容が取り込まれています。それは自分が興味をもつ分野ばかりではありません。今まであまり気にとめなかった内容も含まれ、読者の知識の幅を広げます。また、一つの事柄に対しても様々な見方や意見を提示しています。自分の意見に近いものを読み、共感することもあれば、自分とは異なる意見を知ること、物事の多様な見方に気づくこともあるでしょう。

インターネット上にも様々なニュースや情報があふれており、それらを検索して選ぶことも容易です。しかし、閲覧するのは多くの場合自分が興味をもつ情報に偏ってしまうのではないのでしょうか。また、自分の考えと近い人の主張ばかり求め、視野が狭まってしまいかもしれません。

インターネット上での情報流通の特徴の一つに「エコーチェンバー」というものがあります。これはソーシャルメディアを利用する際、自分と似た興味関心をもつユーザーをフォローする結果、意見を SNS で発信すると自分と似た意見が返ってくるという状況を、閉じた小部屋で音が反響する物理現象にたとえたものです。特徴のもう一つに「フィルターバブル」があります。これはアルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴などを分析し学習することで、望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に孤立するという情報環境を指します。インターネットは必要な情報を手に入れやすいという便利さがあるとともに、人々を「小部屋」や「泡」の中に閉じ込め、偏った考えを助長する場合もあることを理解する必要があります。

さて、本校では多くの生徒が大学進学を目指していますが、大学にはどんな専攻分野があるのか、何を選べばよいか、手がかりをつかめない人もいないのでしょうか。進路の情報を得るには様々な方法があると思いますが、新聞も重要な情報源となります。最新の研究内容や、社会に対する影響、評価などを、これまでの歴史や経緯などを含めてわかりやすく伝えてくれます。この機会に新聞に進路の情報を求め、今まで知らなかった分野を含め、気になった記事を読んでみましょう。そして、考えたこと、感じたことを簡単にまとめてみましょう。これを積み重ねることで、進路に対する知識や見方が広がるとともに、やりたいことが見えてくると思います。そして、この経験が総合型入試や学校推薦型入試、小論文でも生かされます。高い志を掲げるためにも、新聞を活用してみましょう。